

平成 31 年度援護関係予算案の主要事項

	【30 年度予算】	【31 年度予算案】
援護関係予算総額	23,681 百万円	→ 22,122 百万円
1 援護年金	8,878 百万円	→ 7,251 百万円
	(受給人員 4,999 人 → 4,201 人)	
2 遺骨収集事業等の推進	2,380 百万円	→ 2,361 百万円
(1) 硫黄島遺骨収集事業 ・滑走路地区の面的調査等	1,372 百万円	→ 1,359 百万円
(2) 南方・旧ソ連地域遺骨収集事業	719 百万円	→ 755 百万円
ア 現地調査 ・派遣班数の増	266 百万円	→ 301 百万円
イ 遺骨収集 ・派遣班数の増	327 百万円	→ 327 百万円
ウ 法人運営経費	127 百万円	→ 127 百万円
(3) 海外公文書館の資料収集	63 百万円	→ 23 百万円
(4) 遺骨の鑑定	193 百万円	→ 191 百万円
ア DNA 鑑定	156 百万円	→ 156 百万円
イ 人種鑑定	37 百万円	→ 35 百万円
(5) 遺骨・遺留品の伝達	33 百万円	→ 33 百万円
3 戦没者慰霊事業等	572 百万円	→ 586 百万円
(1) 全国戦没者追悼式挙行経費	151 百万円	→ 151 百万円
(2) 慰霊巡拝等	421 百万円	→ 435 百万円
ア 慰霊巡拝	87 百万円	→ 100 百万円
イ 政府建立慰霊碑の補修等	54 百万円	→ 54 百万円
ウ 海外・国内民間慰霊碑の管理	22 百万円	→ 22 百万円
(ア) 海外民間建立慰霊碑	10 百万円	→ 10 百万円
(イ) 国内民間建立慰霊碑	12 百万円	→ 12 百万円
エ 慰霊友好親善事業	259 百万円	→ 259 百万円

4 昭和館・しょうけい館事業	<u>644百万円</u> → <u>664百万円</u>
(1) 昭和館	467百万円 → 480百万円
(2) しょうけい館	177百万円 → 184百万円
5 戦争の経験の次世代への継承（再掲）	<u>29百万円</u> → <u>24百万円</u>
(1) 証言映像の収録（戦傷病者等）	13百万円 → 8百万円
(2) 戦後世代の語り部の育成等	16百万円 → 16百万円
6 中国残留邦人等の援護等	<u>10,422百万円</u> → <u>10,422百万円</u>
(1) 中国残留邦人等に対する支援等	10,205百万円 → 10,251百万円
ア 支援給付の実施等	10,178百万円 → 10,217百万円
イ 中国残留邦人等の介護に係る環境整備	26百万円 → 34百万円
(2) 抑留者関係資料の取得及び特定作業関係	158百万円 → 122百万円
(3) 戦没者等援護関係資料の移管・整備	60百万円 → 48百万円

※ 百万円単位で四捨五入しているため、各欄の増減が一致しない場合がある。